

三小だより 12月号



教育目標 「力たくましく 確かな学力を身につけた 心豊かな子どもの育成」

心身をたくましく

校長 岡村 崇弘

早いもので、今年も残すところ1か月となりました。そろそろ今年の振り返りをする時期になってきましたが、皆様にとっては実りある一年だったでしょうか。2学期は、修学旅行、運動会、社会見学、遠足、音楽会、三小フレンドパーク、マラソン大会等、その振り返りに十分な時間を割けないほど、いろいろな取り組みが続き、忙しい日々を送ってきましたが、子ども達は取り組みを通して様々な力をつけてくれたことと思っています。これからも健康に十分留意し、今年を有意義に締めくることができるよう、時間を有効に活用してくれたらと思っています。

先日は、学習参観・音楽会に多数参加いただきありがとうございました。後日、参加名簿を確認すると、ほとんどの保護者の方が足を運んでくれていることが分かりました。また、多くの地域の方々も音楽会を鑑賞してくれました。学校が、保護者や地域社会に支えられていることを今年も実感いたしました。本当にありがとうございます。今後ご理解・ご支援よろしく願いいたします。



今、子ども達は、12月5日のマラソン大会に向け、朝会マラソンに取り組んでいます。その様子を見ていると三小の子ども達の一生懸命さが伝わってきます。ランニングの時間は約7分間ですが、その間、誰一人としてふざけることも力を抜くこともなく、黙々と自分なりのペースを守って走っています。担当の先生からペース配分のアドバイスを受けながら、そして、頑張っている姿を褒められながら走っているのですが、感心するのは、アドバイスを活かし、励ましに応えようとする子どもがたくさんいることです。最後まで精一杯頑張り、褒められることを喜びとして整理体操でも大きな声を出している様子に、三小の子ども達の素直さを感じています。「何事にも素直に一生懸命取り組むことができる」ことは、本校児童の良い点であり、今後もその特徴を伸ばし育てていければと思っています。

ただ、以前にも話したように、運動会や音楽会の取り組みのように、与えられた課題がある場合には、それに向かってまじめに取り組み成果を上げることができる反面、自ら課題を設定することが苦手な子どもが多いように思われます。今取り組んでいる「三小フレンドパーク(11/30 開催)」においても、創意工夫をする絶好のチャンスなのに、指示待ちの子どもが多く、課題をクリアするための方策を考えたり、率先して、見通しを持って段取りしようとする児童が少ないように思います。「自ら目標を掲げ、その実現のために何をすべきかを考える」、そんな主体的な意識を持ち、少しずつ目標をクリアし、達成感・充足感を味わい、自尊感情を高め、自信につなげ、たくまさを身につけるよう、いろいろな体験をしてくれることを願っています。